雑賀崎・田野・和歌浦地区
景観まちづくりワークショップニュース

第４号（平成２４年３月）
発行：和歌山市まちづくり局
都市整備部　都市整備課

景観まちづくりワークショップの第４回を開催、資源などを共有した上で今後の方向性を議論しました！！

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第４回を、３月２４日（土）に片男波公園健康館で開催しました。

今回は、この間ワークショップ・現地調査で明らかにした地域の資源・問題点を確認、共有した上で、これからどのように議論を深めていくべきか、について意見を交わしました。

次年度以降の進め方についても確認し、概ね７月頃のとりまとめに向けてこのワークショップを継続していくこととしました。

ワークショップのプログラム等の説明

はじめに、都市整備課の前田課長からあいさつを行った後、写真をもとに前回まで話し合った内容のふりかえりを行うとともに、全体のプログラム・進め方と、今後の進め方について説明がありました。

その上で、ワークショップの全体コーディネーターの下村 泰彦先生から、「雑賀崎・田野・和歌浦地区景観まちづくりに向けて」ということで、現在の到達点と、これからの進め方についてお話頂きました。

- これまでみなさんで、景観のいろいろなことを発見してきました。「まちなみ」「道路」「資源」「海岸」「眺望」などです。それを今度から、良い景観をめざすために具体的にどうしていけばいいのかを話していきます。
- その際には、「誰が」やるのかというのを意識しながら「どうやって」やるのかを話していくことが重要です。また「どうやって」の話は、使えるお金がどれだけあるのかというのと関わってきますね。今の時代、自分の資産は自分の手で守り、市しかできないことは市にしてもらう、という姿勢が基本になると思います。
- 具体的な話を進めていくために、次回からは、地域ごとにグループに分かれて話すのがいいのか、「眺望」や「海岸」などのテーマで話すのがいいのか、それもみなさんで話し合ってみてください。

ワークショップ

参加者が４つの班に分かれて、第２回、第３回と話し合った地区の資源、問題点を確認、共有するとともに、今後どういうことを考えていったらよいかを話し合いました。

A 班：大道さん、山野さん、中口さん、中井さん、青山さん、西山さん

これまで見たり話したりしてきたことを土台にして、今後どのような景観まちづくりをしていけそうかを中心に話しました。

①和歌の浦ブランドとは

- 海岸などの景観がいいのはもちろんだが、例えば今流行りの「癒し」のスポットなどのイメージと組み合わせて盛り上げていくのはどうか。
- 地元の住民や活動をしている人が、訪れる人に関わっていければ、それだけで思い出深い場所になると思う。

②多くの住民などを巻き込んでいきたい

- 和歌の浦は名勝に指定されてから、住む人の意識が高まったように思う。
- 厳しい規制をせずとも、和歌浦にも田野・雑賀崎にも、変な色の建物はない。景観への一定の意識はあると思う。
- 活動への参加となると、意識の差は大きいかもしれない。クリーンアップの活動は、数団体が集まって継続的に行ってきたが、住民が気軽に参加しているかというとそうではない。住民が参加するための機会として、このような継続的な活動は重要な意味がある。
- 最近は雑賀崎や田野の方を歩く人も見かけるので、住民から積極的にあいさつなどしていけば、観光客と地域が関わるきっかけになる。

③目に見えない資源

- 漁村の中で方言が発達してきた。田野と雑賀崎でもまた少し異なる。このような「暮らし」と関わる文化を景観+αで押し出せば、特有のブランドができそう。

④目に見える景観整備も

- 廃屋の撤去や田野の遊歩道整備など、目に見える整備も行っていきたい。

⑤次回からの進め方

- 地区ごとに班分けした方が、具体的に掘り下げていけて良いと思う。

B 班：松井さん、土山さん、松本さん、保井さん、佐野さん、小倉さん、藤本さん、前田さん

これまでの議論をふりかえって、今後のワークショップを進めるにあたっての論点について意見交換を行いました。

①景観への意識が希薄

- 住民の景観への意識が不足している

（なんとなく大事だという認識はあるが、だからどうしたら良い、どうすれば良いというところま

での思いは無い）

②地域のイメージづくりが大切

- 景観的に有名なところ（例えば、倉敷とか）は、思う浮かべる事のできるイメージがある。和歌の浦全体にはそれが無い。
- 和歌浦/新和歌浦は歴史的な雰囲気、雑賀崎/田野はまとまりある漁村集落、といった漠然としたイメージはあるが、それが足を運んでまで行きたくなる魅力かどうか。

③観光の活性化に期待

- 歴史的な資源、観光スポットが点在しているがつながっていないのが問題。
- 個々にみると非常に素晴らしい資源が眠っている。
- しかし観光案内所もどこにあるか分からない。（外から来る人はまずアートキューブを訪れる。そこに設置すべき）
- 例えば、紀三井寺から和歌浦、雑賀崎につながるストーリー性をもった観光ルートが出来ないだろうか。
- 和歌浦漁港にはフィッシャーマンズワーフ的な施設も出来るらしい。しらす市場は非常に人気があるし、これを契機に観光振興を期待したい。
- 観光で攻めるならターゲットは「女性」。女性受けする施策（例えば「食」を打ち出した観光とか）を考えるべき。

④規制・誘導もある程度は必要

- 地域住民が頑張るだけではどうしようもない事もある。
- 例えば、廃旅館や派手な色彩の建物など景観を阻害する物件は行政が主導で規制・誘導に取り組む必要があるのではないか。
- 景観計画が出来ても、これからの新築や建替えはある程度コントロールできるが、今あるものをすぐにどうこうすることは出来ない。時間がかかるのはわかるが、「今、悪いモノ」をどう扱うかは重要な課題だと思う。
- 一方、現在の建物は既存不適格のものが多数あり、現実問題として建替えが困難であったり、仮に建替えても床面積が大幅に減少するといった問題もある。例えば、旅館の建替えや新築についてはある程度のメリットを用意するといったことも必要かもしれない。（進出意欲を削がない施策が必要か？）

C 班：林さん、池田さん、宮下さん、赤土さん、小泉さん、中野さん

これまでの話しを土台にして、いろいろと活動しておられる人のお話を伺いながら、これからのまちづくりのあり方について話し合いました。

①地域の資源・問題点について

- 資源や問題点についてはすでに十分意見がでたと思う
- 自然に関しては、補修・維持・管理が出来ればそれで十分
- 灯台の下の駐車場が私有地であるため観光資源として使いづらい、何らかの対策(買い上げる等)ができればよい
- 景色もいい、空気も良い、なぜ若い人が住まないか分からない

②情報の発信、ＰＲ

・灯台の周辺を整備する活動をしている
・せっかく綺麗にしたところをみんなに見てもらうような、PR する取り組みも大切
・活動を継続するには、情報を発信したり、活動している人をつなげたりする仕組みが必要
・インフォメーションセンターがあったが、今年の３月で閉まってしまう
・街をブランディングして、発信できればよい

③住民からみた景観

・漁港のまちなみは漁業があって成り立つように、地区の住民の生活そのものが大切なのでは
・住んでいる人が楽しめるような景観まちづくりでありたい
・少子高齢化の対策として若い人に来てもらいたいが、そのためには実際に住んでいる人が興味を持たないといけない
・まちに愛着がある人でないと、まちづくりの活動はできない
・子ども達がまちを好きになれるような、郷土教育が必要だと感じている
・昔のまちづくりは「3K(環境・観光・健康)」を考えていたが、今はこれに「雇用・経済」が加わって5K を考えないといけない
・観光によるまちづくりと生活によるまちづくりが、景観というキーワードで緩やかに繋がっているように思える
・観光も大切だが、住んでいる人の生活、その思いも大切にしないといけない

④行政との関わり

・観光も大切だが、住んでいる人の生活、その思いも大切にしないといけない
・すでにいろいろな活動をしている人がいる
・そうした活動をどうフォローしていくか、つなげていくか考えないといけない
・コミュニティースペースのような、目的を持った人が集まり情報交換できる施設がほしい
・行政と住民をつなげる場があればよい

⑤ワークショップに関して

・このワークショップでどこまでやるのか、条例をつくるのか、それとも他に何かをするのか、それ自体を考えないと空論で終わってしまう
・いろいろな人のいろいろな思いがあって成り立つのが景観
・せっかくワークショップをするのであれば形のあるものをつくりたい

Ｄ班：唐門さん、中筋さん、中口さん、松本さん、茶畑さん、西口さん、前田さん

●地域の資源・問題点について

①全体的な意見

・資源、問題点は共有できたのではないか
・抜けている資源があるので足しておく必要がある（三断橋など）
・万葉薪能の会は桜の維持管理を行っている、資料は「植えている」とあるので修正してほしい

②地区の資源について

・眺望は毎日見飽きない美しい風景である
・とりわけ自然の眺望が良い、和歌公園から干潟方面への眺望は格別
・ここにしかない風景・景観があり、美味しい魚が食べられるといったことは大切な資源
・田野と雑賀崎は景観の様相は異なるが、過疎化が進むなど景観どころではない問題を抱えているので、まちの再編など思い切ったことを考えていくべき

③文化について
・この地域は有形、無形の文化性の高い場所である
・文化的景観といった考え方もあるので、考えていくべきだ

④人・活動について
・景観を議論している目的は何か、昔と比べて景観が悪くなっているのではなく、人を迎え入れる雰囲気作り、そうした人を育てる人づくりが足りなかったのではないか

●今後に向けて

①地域の良いイメージの発信、ＰＲ
・今回初めていろいろと歩いて分かった部分も多いが、こうした点が全く伝わっていない。初めての人はこの地域に足を踏み入れることすらできないのではないか、ＰＲを考えなければならない
・「住みにくい」と決めつけるにはまだ早いのではないか。例えば坂が多い分健脚の方が多く、健康によい町としてＰＲすることもできる

②地域のルールづくり
・これから建物などを建てていく際にルールが必要
・ただし、地域住民にとっては安全が最優先で、例えば防潮堤の高さをどれだけにすべきか、それと景観をどう折り合いを付けるか、も考えるべき

③地域の意見を反映するしくみづくり（とりわけ地元、漁師さん）
・地元住民や訪問者などいろんな見方から解決策を探していく必要がある
・想いをもった人はたくさんいるが意見を拾い切れていない。そうした意見を聴くしくみが必要
・先生の話の通り、誰がどうやってやるのか、が大事になる。とりわけ外から眺めている分には良いが、地区の中に入ると気になるところはある、それをどうするか
・地区の住民がこうしたことに関心を持って、話し合う場を持たないと景観を良くできない
・とりわけ漁師さんをどう巻き込むか、が難しい。この場にも来てほしいがなかなか参加できていない状況

④人づくり、活動づくり
・この地域が親しみやすいような雰囲気作りが大事で、そのためには一人一人のマナーづくりも含めて人を育てていくしくみ（リーダー養成）が必要
・たくさん活動があるが、ボランティアだけでは継続できないので、支える仕組みが必要である
・既存の活動の積み重ねを尊重すべきで、この会のアウトプットとして屋上屋を重ねるような取り組みであってはならない
・行政のアンテナの感度がこれまで低かったのではないか。もっと行政にも来てもらうようにこの

ワークショップを通じて発信すべき
・地域で組織化された協議会のようなものがあれば、行政も意見を聴きやすい

⑤環境整備
・訪れる人を増やしたいが拠点や交通アクセスなどの課題がある
・支所も拠点として活用できるのでは

⑥その他（ワークショップの進め方について）
・ワークショップをして意見を出して終わり、になってはダメである、何らかの形に残すことが大事だし、継続することも重要
・漁師さんなど地域の方々の本音を引き出す機会も必要では→アンケート、ヒアリングなど
・地域の意見を掘り起こしながら、今日挙がったテーマで話し合いを進めるイメージか

発表

各グループのメンバーが、話し合った内容を発表しました。

最後に、下村先生からコメントがありました。
・今日は、「誰がやっていくのか」という担い手の話が出たと思います。地域の人たちが参加し、市も協力していくために、今後は協議会のようなものを立ち上げるとよいのではないでしょうか。情報発信をしながら、多くの人を巻き込めるといいなと思います。
・次回は、和歌の浦の景観のあるべき姿（ありたい姿）を考えていきます。日本各地で様々な取り組みが行われているので、その事例を勉強してもよさそうですね。

次回は、４月 15 日（日）を予定しています。他の地域の事例などを学習しながら、地域で目指すべきイメージを話し合う予定です。次回もよろしくお願いいたします。

●事務局・問い合わせ先
和歌山市　まちづくり局　都市整備部　都市整備課
〒640-8511　和歌山市七番丁 23 番地
Tel：073-435-1082　Fax ：073-435-1367　E-mail： toshiseibi@city.wakayama.lg.jp